

親を捨てるか、子を捨てるか。

一人生まれれば一人死にに行く
ここは生きるに辛く、
ここを去るには悲しい。
人はお山参りの日まで、
限られた「生」を愛おしむ。

今村昌平監督作品

カラー作品
東映・今村プロ提携
原作 ■ 深沢七郎

「楢山節考」東北の神武たち」
(中央公論社刊/新潮文庫版)
製作/友田二郎
企画/日下部五朗
脚本/今村昌平
撮影/舛沢正夫
照明/岩本保夫
録音/紅谷信一
音楽/池辺晋一郎
編集/岡安肇
助監督/武重邦夫
製作担当/香 宣次

楢山節考

ならやまぶしこう

補形 拳
坂本スミ子
左 とん平
あざ竹城
小沢昭一
常田富士男
深水三章
倉崎實児 (本人)
高田順子 (本人)
倍賞美津子
殿山泰司
樋浦 勉
横山あきお
江藤 漢
ケーシー高峰
小林稔侍
清川虹子
三木のり平
辰巳柳太郎

協力/中日本航空社・電機化学工業社
製作/映倫映画製作所



■かいせつ

七十歳になると、「お山参り」といって、老人は山に捨てられる。あるいは自らすすんで山に入って死んで行く。これが貧しい村の掟である。そうした風習が「棄老伝説」を生んだ。深沢七郎原作の『檀山節考』は、死を目前にした人間の生き方を、土俗的な哀切のなかに描いた鬼気迫る作品である。

これを徹底したりアリズムで映画化したいとの熱望は、今村昌平監督の胸の中で、実に二十数年間、ずっと持続していた。一昨年、ようやく映画化が決定すると、今村組のメイ・スタッフは、ロケ地を求めてロケハンの旅へ。北は青森、秋田から、山形、新潟、富山、そして群馬、栃木に至るまで、それこそ本州の半分をキャラバン踏破した。が、今村監督のイメージするような、人里離れた古い村落を見つけたすのは、今日容易ではない。

しかし、一枚の航空写真が幸運を運んできた。山の中にひっそりとたたずむ七、八軒のさびれた部落。まだこんな所が日本に残っていた。そこは長野県北安曇郡南小谷村から徒歩で約2時間、山を二つ越えたところにある廃村である。むろん車は入れない。冬は豪雪に閉ざされる。村びとはすでに十年前に部落を捨てている。今村組のスタッフは、廃屋に手を入れ、さらにわらぶき屋根の農家を二軒たて、完璧な「村」に復元した。これが映画の撮影現場になると同時に、スタッフ・キャスト陣の合宿生活の場となった。一九八一年十二月三日、映画『檀山節考』は、こうして永い撮影がはじまった。

主役のおりん婆さんを演じる坂本スミ子は、今村流完璧イズムに添って健康そのものの前歯を四本も抜き、体重を10キロも減量した。やがて七十歳を迎えるおりんになりきるためだ。メイ・スタッフにも、アメリカ映画のベテラン・メイク師をわざ／＼招いたほど。衣裳をつけてカメラの前に立つと、これがあのおスミさんかと眼を疑う。完全なおりん婆さんだ。実力派ナンバーワンの緒形拳と絶妙のコンビを組んで、死を決意した母の強さ、愛の深さを熱演している。

この作品は、四季が織りなす優しさと厳しさのなかで、人間の永遠のテーマである「生と死」「親と子」の本質を追求した『魂』のドラマである。

「檀山節考」について

今村昌平

豊かではあるが、生きる意味を失っている現代社会に対し、貧しく飢えているが、生きる意味を持つ社会がかつてはあった。

この村は、土地は狭く、飢えは甚だしく、一人生まれれば一人死ななくてはならない。七〇歳になる寸前に、老人は捨てられるという形で自らの生命を断つ。飢えて盗めば殺される。

女の子は一人を残して売られ、二、三男はヤッコ——つまり農奴として妻をめとることも出来ず、長男の家に一生飼われ殺しとなる。

苛酷な掟に逆うものは居ない。苛酷さに堪え、逆らわず、厳しい自然に従い、自然と調和を保ちながら、誰もが生を全うしなくてはならない。

猛々しく戦うのではなく、柔らかに、呑気に、やさしく、生きるのである。

そこには、打たれ強いボクサーのような忍耐力と、強靱な心のパネが必要だ。

死の時間が決められている分だけ、村人達は生について思いを至さないわけにはいかない。おりんはもうすぐ七〇歳になる。

彼女は、山で自らの生命を断つについて、残された者達の生を思いやる。

自ら死ぬことが他を生かすことであり、他を生かす為の死が、彼女自身の生なのだということを知っている。

死ぬことが、「完全に生きる」ことであり、死を目前にした彼女の生は充実する。

母を背負って山へ棄てに行かなくてはならない長男辰平の感傷や迷いを、だからおりんは心もとなく思い、励ます。

棄老伝説（檀山節考）をもとにしたこの物語は、一見残酷である。だが現代を振り返って見る時、管理社会の一片の歯車と化す人間の姿は、残酷ではないと言いつてもいいだろうか。福祉社会の恩恵は、人間を真に幸福にし、生を充実させているのだろうか。

老人ホームのありようは、人生の終幕を飾るのにふさわしいのか。世界的な環境汚染と、人口急増は……一人生まれれば一人死なねばならぬこの村とどう違うのか。

おりんの死と生を追求することによって、私は人生の意味の究極を知りたいと思う。